

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム ななしぐれ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391400017		
法人名	社会福祉法人西根会		
事業所名	グループホームななしぐれ		
所在地	〒028-7404 岩手県八幡平市堀切第14地割10番地7		
自己評価作成日	平成 29 年 10 月 18 日	評価結果市町村受理日	平成30年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i.ndex.php?acti.on.kouhyou_detai.1.2016.022.kani=true&Ji.gvosyoCd=0391400017-00&P.refCd=03&Ver.si.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29 年 10 月 30 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様はととも明るく笑顔があります。理念である「聴きましょう、話しましょう、笑いましょう」をモットーに日々楽しい会話が聞かれています。ホール内から見える岩手山を毎日眺め住み慣れた場所で安心した生活を送られています。事業所は、災害等に見舞われにくい安全な土地柄にあります。三事業所合同(北部DS、GHななしぐれ、陽だまりの家)での夏祭りや避難訓練があり地域の方々との交流、協力関係作りにも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、岩手山を眺望しながら移り変わる四季を楽しめる環境にある。職員が話し合っ作った分かり易い表現の「聞きましょう・話しましょう・笑いましょう」の理念の具現化を図るため、平成29年度の事業計画では「利用者が自分らしく喜びをもって生活できるように」の実践方針のもとに、更に5つの主要な実践項目を定めて取り組んでいる。地域とのつながりも、地区公民館の花壇整備に参加したり、中学生や民謡の会等の来訪のほか、ホーム主催の夏祭りに住民の参加を呼びかけるなど、多様な交流を図っており、年々地域とのつながりが深まっている。また、利用者の体調管理に配慮した取り組みにより、利用者の表情も明るく、施設内に笑い声や歌声、話声が響きわたるなど、利用者本位の取り組みが窺える事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム ななしぐれ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「聴きましょう、話しましょう、笑いましょう」を理念とし見えやすい場所に掲示している。職員会議等で唱和し職員で共有している。日々の生活の中でも利用者の笑顔を引き出すように努めている。	理念の具現化を図るため平成29年度事業計画でその方針を示し、更に5つの主要な実践項目を定めて取り組んでいる。理念は玄関やホールに掲示しているほか、職員会議で唱和し意識を高め実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事について情報収集し参加するように努めています。山崎地区の花壇活動に参加したり中学生がボランティアに来て一緒に交流することができました。夏祭りは地域の方々に呼びかけたくさん参加していただき交流することができた。	自治会に加入し、地区公民館の花壇整備に利用者と職員が参加している。中学生が毎年窓清掃に訪れたり、民謡の会や学童の来訪のほか、ホーム主催の夏祭りに住民の参加を呼びかけるなど、様々な形で交流を図っており、地域とのつながりが年々深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に対していつでも相談や問い合わせに対応できるようにしている。又、運営推進会議を通じて認知症の説明をすることで理解をしていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催して活動報告や利用状況を報告し委員の方から意見等を頂いている。又、会議だけではなく避難訓練や夏祭り等にも参加していただいている。	運営推進会議は、併設している小規模多機能型居宅介護事業所「陽だまりの家平館」と合同で開催している。会議では、「夏祭りに神楽の参加が良かった」とか、「目や耳の不自由な方へ対応」、「認知症と薬」、「認知症への対応」等の貴重な話題のもと意見交換が活発に行われている。また会議終了後、避難訓練に参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員が、運営推進会議や入所判定会議の構成メンバーになっているので情報を頂いたり提供したりする機会がある。	利用者の要介護更新認定や生活保護手続きについて常時連絡を取り合っている。また、運営推進会議に市職員が出席されたときに、事業所の課題や利用者の困難事例の取り組み状況などの相談や情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜勤帯では、防犯上玄関の施錠をしている。身体拘束に関しては、県で実施している身体拘束実態調査の結果を見て意識している。	身体拘束を行わないケアについては、法人主催の勉強会に参加して理解を深めている。また、新聞・テレビの報道事例を参考に職員間で話し合う機会を設けている。なお、夜間の転倒防止対応のため感知センサーを設置している方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の研修会で外部講師を招き学ぶ機会があった。言葉使いにも十分気をつけるようにしている。施設会議でも施設長から「あつてはならない。」と常々言われ意識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修会に参加し学ぶ機会がある。現在制度を必要とする利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約や改定等については直接家族に重ねて説明し同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所した時、生活の様子をお知らせしている。利用者、家族から要望あった場合記録に残し早めに対応できるようにしている。又、苦情相談窓口を設けている。	玄関に意見箱を設けているが、現在までに利用されていない。利用者及び家族の意見や要望を把握するため家族の面会時に話を聴くように心がけている。なお、家族の関心は入居者の体調面ということもあり、来所の都度報告、説明をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや定期的な会議の中で意見、提案など発言の機会を設け働きやすい環境作りに努めている。又、日々の会話の中でも利用者のこと、業務のことなど意見や提案あれば傾聴している。	定期的に開催する職員会議やミーティングで、管理者は職員から積極的に意見・提案を聞くようにしている。過去に業務時間の提案があり、改善した例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の登用試験や資格取得に取り組んでいる。定期的に業務の見直しを行い職場環境の整備に努めている。希望すれば相談に応じてくれるときもある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員配置を配慮しながら職員の技量に応じて可能な限り研修会に参加するように取り組んでいる。法人内の研修会は多くの職員が参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会、ケアマネ協会等の研修会に参加することで他施設の良い点や参考になる点を学びとっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に自宅訪問等をして本人、家族と面接している。会話の中で本人の困っていることなどを傾聴し安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の相談から入所にいたるまで定期的に状況を確認している。サービス開始前には施設内を見学していただいている。又、家族の立場になって不安、要望を傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を確認し本人、家族の要望をもとにその時何が必要か見極め初期計画を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできる部分は、本人の役割と提供していただけない部分は支援している。生活の中で「人生の先輩」である利用者から知恵を拝借する機会もある。理念にもとずき楽しい時間を共有するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者にとって良いと思われる支援を両者で考えていこうとし本人と家族の関係をいつまでも築いていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば家族の付添いで外出、外泊をしていただいている。馴染みの方の面会等あれば居室、面会室でゆっくり過ごしていただき又足を運んでくれるように声掛けをしている。いろいろな場面を写真に残し回想法につなげている。	家族や親せきの訪問の際は、居室などで楽しそうに会話している。また、併設事業所の「陽だまりの家平館」を利用している旧友・知人と行き来して親交を深めることもある。今年度から利用者個々の自宅方面へのドライブ等を計画、実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員が共有スペースで過ごすことが多い。利用者同士で会話したり活動している。時には、口喧嘩する時もあり職員が間に入る場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の継続などで契約終了となる場合が多い。その後の生活の場について相談や支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で本人が何を希望されているか受け止められるように一人ひとりの話しに心を向けている。又、日常生活において利用者一人ひとりが役割を果たす場面がある。	フェイスシートから本人の出来ること・出来ないことを把握するほか、利用者個々の何気ない動作や会話から本人の思いを汲み取り、連絡ノートに記載し職員間で共有している。例えば、掃除について車いすの方でも出来る事をしていただき、本人の意思を大切に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談時から本人、家族などから情報収集している。今までの生活スタイルが維持してもらえるように在宅時の様子を担当ケアマネから聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を共にすることで把握できている。又、生活の様子は申し送り、連絡ノート、日誌、生活記録で確認することができている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が利用者の状況や家族の希望を聞きながら原案を作成し会議の場で全職員から意見を取り入れ介護計画を作成している。	利用者個々の担当職員が中心となって本人及び家族の要望を聞き取りながら原案を作成し、全職員の意見を取り入れて利用者本位の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子は毎日記録されて全職員で情報を共有している。ケアプランの実施状況も生活記録と一緒に取り入れ介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のその時のニーズに受け止め柔軟に対応している。受診支援や急な外出、外泊など支援している。又、その日の気分でドライブや買い物等に行くときもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生のボランティア、市内の床屋さん、民生委員などを通して地域の方々とのかかわりができた。夏祭りや地域の方の慰問など見ることで暮らしを楽しむことができている。GHの情報を書面で市内の交番に届けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者にはそれぞれかかりつけ医がある。定期的な受診は家族から協力していただいたり看護師が対応する場合もある。受診時には健康状態など家族や主治医に情報提供している。訪問診療(眼科、歯科)を受けている利用者もいる。	利用者は以前からのかかりつけ医を利用している。受診時は家族が対応するが、看護職員等が付き添って対応する場合もある。なお、受診するときの体調状況を医療機関に伝え、受診後の結果については家族から聞いたり、家族に報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年度は看護師が配置され利用者の体調管理に努めている。介護職は利用者の状態に変化があれば報告し場合によっては受診するときもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリー等を作成し必要な情報を提供している。面会に行った時は病院から治療の経過について説明をいただき退院に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「ターミナルケア」については整備している。段階を踏みながら本人、家族の意向、治療法など早い時期から考えていきたい。	利用者の重度化や終末期に対応するために法人の協力を得て「ターミナルケアマニュアル」を作成している。利用契約時に家族に説明しているが、これまで看取り経験はない。	詳細な「ターミナルケアマニュアル」が作成されているが、今後、看取り希望に対応するため法人内の特別養護老人ホームの経験の学びや、医療機関との連携の在り方等の理解が大切と考える。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し学習できるようになっている。又、看護師から学ぶときもある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行いマニュアルに沿って実施している。水害についても整備されている。災害援助協力会があり地域の方、運営推進委員の方にも参加していただいている。	夜間想定を含めて、年に2回の避難訓練を実施している。訓練には消防団経験者を含めた近隣の住民で構成した災害援助協力会(16人程)や運営推進委員の参加、協力を得て実施している。なお、自然災害に関するマニュアルも整備し、備蓄も食料品(3日分)、日用品などを確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	大きい声や指示的な口調、命令口調にならないように配慮しやすい言葉かけを意識している。訪室時は、ノックするなどプライバシーに配慮している。	人格の尊重に留意し、自分がされて嫌なことはしないが職員共通の認識である。入浴時やトイレ使用時は他人に知られないよう声のトーンを落とした会話に心がけている。管理者は不適切な言葉かけに気付いた時は注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人に問いかけなどをして希望や思いを聞いている。介護者側の考えを押し付けないように自己決定できる雰囲気作りにも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けしながらも一人ひとりの気分や状態に合わせて活動を促し無理強いないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の意向で衣類等を準備していたり、必要に応じて支援している。長寿を祝う会では女性利用者は全員化粧しおしゃれをすることができた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずは外注だが、ご飯と汁物はGH内で調理している。食事前にメニューを紹介したり畑の野菜を使うことで旬を味わっていただいている。定期的な手作りおやつは大好評である。食事の片付けは利用者も参加し台所から話し声や笑い声が聞こえる。	外注のおかずのほか、近隣の農家から野菜のおすそわけや菜園で育てた野菜を収穫して味噌汁等の食材として味わっている。利用者は食事の片づけやおやつ作りなど、できることは役割として手伝っている。時には豪華な行事食を作ったり、弁当をとったり、外食をすることで食べる楽しみを味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は、毎食確認し少ない方には声かけをしている。咀嚼能力により形態を変えたり体調、体重の増減を考慮しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの支援をしている。利用者の状態にあわせた見守り、介助をしている。口腔内に異常あれば訪問歯科診療で対応する場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握しその人にあった時間にトイレ誘導をしている。又、利用者の様子やしぐさを察知しトイレ誘導する場合もある。	排泄チェック表から排泄パターンを把握し、また、しぐさからトイレ誘導をしているが、多くの利用者は自分でトイレに行っており、職員は見守りや後始末に徹している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、水分、野菜を多く摂ることで自然排便につながるよう取り組んでる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ほぼ定期入浴となつてはいるが入浴前の体調確認を午後入浴をしている。職員と1対1なのでコミュニケーションを取るよう心がけている。	入浴は週2～3回を目途に、体調等、個々の都合に合わせて午後の時間帯で支援している。着替えは自分で準備でき、入浴を拒否する者はいない。入浴中は職員と昔話や世間話でコミュニケーションを深めゆったりと入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後や入浴後など本人の好みの場所で自由に過ごしていただいている。生活のリズムが崩れないよう日中は活動をすすめ夜はぐっすり眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は処方都度、説明書を見て全職員確認している。服薬により症状の変化があれば家族や病院に連絡している。服薬時は名前の確認をし飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、一人ひとりにあつた役割を發揮していただき作品づくり、行事に必要な物を作成していただいている。そのことで気分転換につなげている。又、コーヒーが好きだった方に提供することで楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は、ゴミ捨てを兼ねて散歩したり畑を見に行き季節を感じていただいている。又、突発的にドライブに行くときもある。本人希望で家族から外出支援の協力をしていただいている方もいる。	天気の良い日は、花壇や野菜畑に出かけ、花や野菜の生育を観察して収穫を楽しみにしている。近隣のゴミステーションに散歩を兼ねてゴミ捨てに出かけることもある。時季に応じてドライブに出かけるなどして季節の変化を満喫する機会もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫にお預かりしている。希望があれば使用していただけることを説明している。ご家族が来所したとき使用状況を説明し残高の確認をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望されている方はいつでも事業所の電話を使用していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく環境を変えないように配慮している。季節を感じられるように利用者と職員で作った季節の作品を展示している。明るさや温度などは利用者の体感を伺いながら調整している。GH内の見やすい場所に写真、カレンダー、時計があり生活に安心感がある。	ホールや廊下に職員と一緒に作成した季節の作品を飾り付けている。ホール(食堂)は明るく、パネルヒーターにより温度管理され、快適な環境を提供している。小上がりの畳のスペースやテレビの前のソファは利用者にとって寛げる居心地の良い場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファ、たたみの小上がり、食堂の椅子などがあり自由に使われている。その時の状況に合わせて使い分けられている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の環境に近づくようにベッドの高さなど家族から確認していただいたりその人らしく安全面も考慮しレイアウトしている。それぞれ使い慣れた物や思い出のあるものを配置している。	各居室にはベッド・クローゼット・つり戸棚・洗面台等が整備されている。基本的に家庭で使い慣れたものや必要なものを持ち込み、家族の写真やぬいぐるみ、位牌などが置かれている。室内は掃除が行き届いて清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には手すりがあり安全に移動できるように配慮してある。居室の表札やトイレの場所はわかりやすく表示してある。台所には、昇降式の配膳台があり利用者が台所で活動しやすくなっている。		